



伝統の黒いガウンと角帽を身にまとい、校歌を斉唱した―海星学院高

「世の中照らす星となれ」

室蘭・2私立高校が卒業式

室蘭市の海星学院高校(高砂町、堺俊光校長)と北海道大谷室蘭高校(八丁平、竹本将人校長)の私立2校は27日、卒業式を各校で開いた。両校は新型コロナウイルスの感染予防対策を徹底しながら、学びやを巣立つ卒業生を送り出した。道立高校の卒業式は3月1日に行われる。(伊藤真史)

海星学院

海星学院高の卒業生は59人。伝統の黒いガウンと角

帽を身にまとい、会場のベネディクトホールで一人一人が堺校長から卒業証書を受け取った。

堺校長はコロナ禍で発想の転換が求められるとした上で「柔軟かつ大胆な姿勢で、世の中を照らす星となつてほしい」と激励。小林薫理事長は「自分を信じ、両親や周囲への感謝を忘れず、力強く自分の道を歩んでほしい」と語り掛けた。前生徒会長の小松萌加さんが、卒業生を代表してあいさつ。「支え合える仲間と最高の3年間を過ごすことができたし、先生方のおかげで学習面と精神面が成長した。ずっとお弁当を作ってくれたお母さん、ありがとう」と感謝の気持ちを

述べた。

「コロナ対策として入場者を卒業生、保護者、来賓、教職員に限定。校歌や聖歌などの斉唱は1番の歌詞のみに限定するなどして、1時間で終了した。毎年卒業生に貸し出す黒のガウンと角帽は、前身の室蘭カトリック女子高校時代から50年以上、毎年クリーニングして大切に使い続けてきたが、室蘭市や同窓会などの支援を受け、今回から新調した。